2　違法行為

社会にはきまりがあり，秩序ある社会はそのきまりが守られることによって成り立っている。子どもたちは，学校という社会において秩序と規律を守ることを学び，個人の自由が保障されるためには，自分の権利を正しく主張するとともに，他人の権利を尊重し，自らの義務を果たすことが大切であることを学ばなければならない。しかしながら，昨今犯罪の低年齢化は進んでおり，特に万引きの占める割合や粗暴犯の増加が見られる。

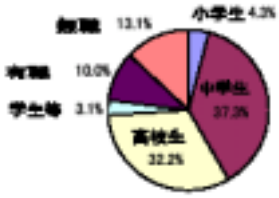
「道徳の時間」では，「公徳心」や「遵法の精神」などの内容に取り組んでいるが，こうした違法行為の減少を図るためにも一層効果的な指導が求められる。

ここでは，違法行為にあたる飲酒・喫煙，暴力行為，万引き・金品強要，器物損壊，暴走行為に焦点を当てた指導について授業実践例を紹介する。

ほとんどの子どもたちは悪いことであることは認識できている。しかし，叱られたり罰せられるからやってはいけないという他律的なレベルに留まっている限りは，「見つからなければよい」などの理由で安易に違法行為に走ってしまう場合がある。違法行為が誰にどのような迷惑をかけているのか，周囲の人々だけでなく，どんな人たちを悲しませることにつながるのかを考えさせたり，人としての在り方や自らの生き方に照らして考えることを通して，他人が見ていようがいまいが違法行為を行わず，正しく生きていくことの大切さを考えさせたい。

低年齢化の状況

○ 中学・高校生が全体の約7割で，中学生の補導数が高校生を上回る

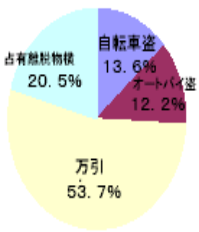


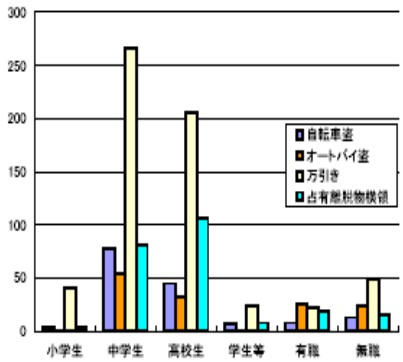
		総数	小学生	中学生	高校生	学生等	有職	無職
平成１５年		1,836	79	685	592	56	183	241
	構成比	100.0%	4.3%	37.3%	32.2%	3.1%	10.0%	13.1%
平成１４年		1,999	62	783	629	76	193	256
	構成比	100.0%	3.1%	39.2%	31.5%	3.8%	9.7%	12.8%
増減	数	−163	17	−98	−37	−20	−10	−15
	率	−8.2%	27.4%	−12.5%	−5.9%	−26.3%	−5.2%	−5.9%

広島県警察本部「平成１５年非行少年等補導状況」

万引きの状況

○ 万引きが半数以上





	小学生	中学生	高校生	学生等	有職	無職	総数	平成14年
初発型非行	49	481	389	40	76	103	1,138	1,291
自転車盗	4	78	45	7	8	13	155	125
オートバイ盗	1	55	32	1	26	24	139	221
万引き	41	267	206	24	23	50	611	690
占有離脱物横領	3	81	106	8	19	16	233	255

平成14年は上半期（1～6月）の数値

広島県警察本部「平成１５年非行少年等補導状況」

（１）飲酒・喫煙の指導に生かす

未成年の飲酒・喫煙は法律で禁止されており，児童生徒には絶対に許されない行為であることを指導する必要がある。また，事情を承知の上で親権者や監督すべき立場にある人が，未成年の飲酒・喫煙を放置すると法律によって処罰されることが定められており，当然のことながら，教職員も飲酒・喫煙の防止について指導する責任がある。

総務庁が，平成 13 年にまとめた「青少年とタバコ等に関する調査研究報告書」によると，過去 1 年間にタバコを吸ったことがある少年は，高校生男子の 24．4%を最高に，中学生・高校生の男女全体で 14．3%，また，過去 1 年間に酒類を飲んだことのある少年は，中学生で 45．2%，高校生で 70．6%に達している。（平成 13 年版「警察白書」）

わが国では日常的に大人の飲酒・喫煙を見る機会も多く，興味本位で経験する生徒も多いと考えられる。例えば，祭的行事のなかで，親がすすめるケースも考えられるし，友だちどうしでの夜遊びや外泊は飲酒・喫煙の温床でもある。

学校では，保健体育や学級活動の時間での指導をはじめ，薬物乱用防止教室，長期休業前の生活指導，保護者への地域懇談会での啓発などの取組みをすすめている。保健体育等の授業で喫煙で汚れた肺のビデオを見せたりすることは，科学的な認識を育成する上で有効だと思われる。

しかし，知識の注入や禁止事項の指導だけでは，「見つからなければよい」というような意識を払拭するには限界がある。そこで，即効性はなくても，児童生徒に生き方を考えさせることによって防止する方法も考えていく必要がある。「道徳の時間」では「節度，節制」や「遵法」の内容項目から，飲酒・喫煙を指導することも考えられるが，禁止事項の指導だけでは，「道徳の時間」以外の場での指導と変わらない。

児童生徒の心情を揺さぶるには「自主自律の精神」や「自分を見つめた充実した生き方の追求」あるいは「断る勇気」や「誘惑に負けない強い意志」などの内容項目から指導する方法などを検討してほしい。

（１）　主題名　強い意志　〔中学校１－（２)〕
（２）　ねらい　飲酒，喫煙などの誘惑に対して，勇気をもって断る態度を育てる。
（３）　資料名　「なぜきっぱり断れないか」（出典：中学校　道徳の指導資料第１集　文部省　改作）

資料の概要
　主人公の田中君は，下校途中にコンビニ立ち寄った。偶然に居合わせた級友にパンを買わされたこことから，望まないつきあいが始まる。そして級友との望まない関係が深くなっていくなかで，喫煙を誘われることになり，田中君は悩む。

（４）　学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　校則を確認する。 2　自分の経験を確認する。	○本校では，下校途中にコンビニに寄ってもいいことになっているでしょうか。 ○コンビニに寄ろうと思ったことがある人は，そのときの気持ちを思い出してみましょう。	○自分のことを発表しにくい 場合は，思い出させるだけにする。
展開	3　資料を読んで，田中君の気持ちを整理して考える。 4 よりよい行動を考える 。 5　最後の場面を考える。 6　田中くんが誘われた理由を考える。	○田中君が，初めてコンビニでパンを買ってあげたときの気持ちを考えましょう。 ・１回くらいならいいか ・断るとあとがめんどくさいなあ ・ケチだと言われたくない ○田中君がタバコをすすめられて「今日はやめとくよ」と言って断りましたが，この断り方をどう思いますか。 ・今日は・・と言った方が断りやすい ・臆病だと思われたくない ・曖昧な断り方でよくない ○田中君は，なぜまた誘われるだろうと思ったのでしょうか。 ・吉田君がしつこそうだから ・きちんと断らなかったのがわかっている ○再び誘われない断り方を考えましょう。 ・タバコには興味がないよ ・僕はタバコはよくないと思う ○公民館の裏の場面で，田中君はどうしたらいいか考えましょう。 ・きっぱりと断る ◎なぜ田中くんが誘われたのかを考えましょう。 ・校則を破ったから，仲間にしやすいと思った ・きっぱりと断らないので，次も誘いやすい ・近道をしようとするような心に原因がある	○自分にもあてはまりそうなことに気付かせる。 ○はっきりと断っていないことに気付かせる。 ○はっきりと断っていないことを田中君自身も知っていることを確認する。 ○決断するには勇気が必要なことに気付かせる。 ○大勢のなかで断るには，さらに勇気が必要なことに気付かせる。 ○タバコに限らず，すきを見せると誘われやすいことに気付かせる。 ○人間の弱さに気付かせる。
終末	7　心のノートを読み，今日の授業の感想を書く。	・自分にも弱いところがあった ・自分はきちんと断ることができる ・友だちのことを考えると断れない場合もあると思うが，がんばる	○Ｐ２２～２３ 「中学生だもの，自分で考え，判断し実行するのはあたりまえ」「まっいいか，やば」を活用する。

なぜきっぱり断れないか

田中君は野球部での練習の疲れと空腹のために、学校の帰りにふらふらとコンビニへ入ってしまった。
ところが、店に入った彼は、友だちの吉田君、佐藤君といっしょになってしまった。
「やあ田中君か、めずらしいお客さんだ。」
「おれたちにも少しおすそ分けをしてもらおうかな。」
吉田君、佐藤君は、そう言って田中君にパンを多く買うように言いよってきた。
「親友の間がらじゃないか、けちけちするなよ。」
そう言われると、田中君は結局よけいにパンを買うことになった。
おいしいはずのパンであったが、学校の規則を破っての買い食いである。しかも、嫌な友だちの分まで買わされてしまったことから、パンの味までよくわからない気分だった。

翌日の放課後、校庭で遊んでいた田中君は、偶然吉田君と会ってしまった。
「よう田中、昨日はサンキュー。」
「・・・・・。」
「今日はお礼をするよ。」
そう言うと、吉田君はついてくるように言った。
そして、体育館の裏につくと、吉田君はタバコの箱を取り出した。
「一本吸ってみるか。」
「いいよ、やばいよ。」
「平気さ。臆病だなあ。」
吉田君、はなれた手つきで火をつけ、吸って見せた。
「吸ってみろよ、田中。」
「いや、今日はやめとくよ。」
田中君は断ると、逃げるようにその場を去っていった。
また誘われるだろうと思うと、その夜はなかなか眠れなかったが、何日か吉田君に合わないうちに気にならなくなっていった。

ある日のこと、田中君は学校の帰りに近道を通って帰っていた。いつもは通らない公園を抜けて、公民館の裏へまわったときのことだった。
「あっ、だれかタバコ吸ってる。」
数人の中学生だということはすぐにわかったが、田中君に気づいて振り返ったのは吉田君だった。そして佐藤君もいた。
「よう田中じゃないか。」
「どうしたんだ、こんな所を通って。」
「ちょっと近道をしようと思って。」
田中君は、この前のことがあるので急いで帰りたかったが、予想どおり誘われた。
「ちょうどいい、タバコ吸ってみろよ。今度吸うって言ってただろ。」
「えっ、そんなこと言ってないよ。」
「いいから吸ってみろよ。」
どうしよう。佐藤君や、まわりの仲間たちもしつこく勧めてくる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

本資料は，以前文部省（当時）が作成した「中学校　道徳の指導資料　第１集」に掲載されたものを改作している。元はパンの買い食いを強いられる展開であったが，タバコの内容に作り変えた。

生徒が飲酒や喫煙をするきっかけは，自らの興味による場合もあるが，仲間からの誘いによるものも少なくないと考えられる。とりわけ，力関係による強要は深刻であるが，強い意志をもって断るべきは断るという態度を育てたい。

２　指導過程の工夫

導入では，自分の生活とつなげるために資料前半の状況と似たような経験を聞いた。実際にコンビニのパンを提示し，授業に引きつける方法も試みた。

展開では，主人公の心の動きを考えることで，だれにでもある心の弱さを確認する活動を多く取り入れた。

終末は「心のノート」を用いることで，自分の生活を振り返らせた。

３　発問の工夫

すべての発問が，心の弱さと強い意志を考える構成になっている。

「今日はやめとくよ」という断り方を聞く発問では，実際にどのように断ったらいいかを役割演技でスキル学習的に実施することも考えられる。

飲酒・喫煙に限らず，暴走族に誘われる場合でも，服装・態度・行動などですきをつくることが問題であることを考えさせたのが，「なぜ田中君が誘われたのか」の部分である。

４　生徒の反応

本資料は非常に分かりやすい構成であり，一度読めば何が問題なのかはすぐに理解できる。発問２で考えた不用意な発言も容易に理解できたし，正しい行動も考えることができる。ただ，理解することと，自分の生活で実行することの間には溝がある。

平気で断れるという意見が多かったので，**「上級生に誘われたらどうするか」**と聞いたところ，反応は鈍かった。

・「今日はやめとく」という断りかたは，今度は吸うと言っているようなものだ。
・その場しのぎの発言はダメ。
・このままだとパシリに使われるようになってしまう。

５　授業後のフォローアップ

道徳の授業ではその時間の感想を書かせ，数点を学級通信や朝の会・帰りの会で紹介する取組みをしているが，本時は帰りの会で紹介した。

保健体育の授業で１１月に薬物乱用防止の授業を計画しているが，このような様々な学習の機会で，この授業のことを想起させるなどして指導していきたい。

（砂谷中学校）

（２）金銭（品）強要，窃盗・万引きの指導に生かす

金品強要は，力関係の優位を利用して相手に脅威をあたえ，金銭や品物などを強要する行為である。このような行為は集団によって行われることが多く，罪の意識が薄くなり，何度も繰り返したり，金額が大きくなったりするなど，エスカレートしていく場合もある。また，集団の力で威圧したり，いろいろな口実を用いたりして巧妙な手口で行われるようになってきている。

窃盗・万引きは，他人の財産権を侵害する行為である。自転車盗や万引きなどは，初発型非行と呼ばれ，罪の意識が薄く，児童生徒の非行の中で数も多い。また，このことがきっかけとなり深刻な問題行動に至る場合も多く見られる。

初発型非行に対しては，家庭と協力し，看過できない犯罪行為であることを認識させるなど予防的な指導が重要である。また，持ち物や金銭を安易に貸し借りしないこと，不要な金品を持ち歩かないことなどを指導したり，日常的に，児童生徒の状況や人間関係などの小さな変化を見逃さないようにしたりするなどきめ細かい指導が大切である。

しかしながら，罪の意識が薄く，規範意識や自律心が十分育っていないこともあり，誘惑に負けてしまったり問題行動を繰り返したりすることもある。

そこで，道徳の時間では，行ってよいことと悪いことが区別できるよう判断力を養うとともに，正しいことは勇気をもって行い，正しくないことは勇気をもってやめる態度を育てること，自律の精神を重んじるとともに，自分の責任をふまえた行動についての理解を深めること，社会生活上のルールや基本的なモラルなどの倫理観を育成し，遵法の精神を養っていくことなどが大切である。

その際，児童生徒自らが自分自身への問いかけを深めていくようにすることが大切であり，家庭や地域と連携して，保護者参加型の授業を工夫したり，ゲストティーチャーを招いたりするなど，大人のネットワークを生かして健全な社会正義の存在を示しながら指導することも効果的である。

（１） 主題名　自分の心に誠実に　〔小学校高１－（４）〕

（２） ねらい　自分に誠実に，明るい心で生活しようとする気持ちを育てる。

（３） 資料名　「のりづけされた詩」（出典：みんなのどうとく６年　学研）

資料の概要

和枝は学級文集に詩をのせることになったが，なかなかいい詩がうかばない。そんなとき，本だなにあった本をめくっていて，自分が書こうとしている内容とぴったりの詩を見つける。和枝は，その詩の出だしの２行を自分の詩に使ってしまう。やがて，文集の印刷ができあがり，あとは表紙をつけるだけになった。和枝は悩んだ末，放課後担任の先生に盗作したことを打ち明ける。出来上がった文集の和枝のページにはえんぴつで書かれた別の詩が一枚一枚のりづけされていた。

（４） 学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	１　「心のノート」25 ページの絵をみて考える。	○この絵は何をあらわしているのでしょうか。 ・　自分の心の中にまじめさとずるさがいる ○自分も同じでしょうか。	○「心のノート」25 ページのずるさとまじめさが重なっている絵を見せて考えさせる。
展開	２　資料を読みながら話し合う。 ・「題名までも使うとはー。」まで読む。 ・「うれしそうに言いました。」まで読む。 ・最後まで読む。	○どうして和枝は本に載っていた詩を使ってしまったのでしょうか。 ・　どうしても思いつかなかったから ・　自分の書こうとしていた内容とぴったりだったから ○文集係に原稿を渡したあとで，和枝はどんな気持ちになったでしょうか。 ・　上手な詩になってよかった ・　胸がしめつけられるような気持ち ・　後悔する気持ち ・　暗い気持ちになった ○自分だったらこの後，どうしますか。 ・　だまっている ・　正直に言う ◎和枝はどんな気持ちでのりづけされたページを見たでしょうか。 ・　これでよかった ・　すっきりした	○和枝の気持ちを共感的にとらえさせる。 ○場面絵を提示する。 ○正しい対処の仕方を知っていることをおさえる。 ○自分の良心に反した行動をとってしまい後悔している気持ちをとらえさせる。 ○自分の気持ちに誠実な行動をとったことで，すっきりとした気持ちになったことを共感させる。
終末	３　「心のノート」（高学年用）24・25 ページを読み記入する。	○「心のノート」24・25 ページを読んで，「自分の心をそっとのぞいてみよう」を記入しましょう。	○自分に誠実に生きるとはどういうことなのか考えさせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

本資料は，盗作した詩を文集にいったんは載せてしまった主人公が，葛藤の末，正直にその行為の非を認め，あらためて自分が考えた詩をのりづけするなど誠実に行動した話である。誰でも，よくないこととは知りながらもつい誘惑に負けてしまい，楽な方へ流れてしまいそうになることはある。そんなときに，自分の良心に従い，誠実な行動がとれるようにしていきたい。また，自分の気持ちに誠実に，明るい心で生活していこうとする気持ちを育てていきたい。そのような気持ちが，誘惑に負けない心を培っていくと考える。

２　指導過程の工夫

主人公の行動にそって場面ごとに絵を提示するなど構成的に進め，主人公の気持ちを共感的にとらえることができるようにした。導入では，「心のノート」の絵を活用し，絵の表している意味を問うことにより，本時の学習に対する方向性をもたせるようにした。展開では，主人公の行動にそって資料を読みすすめ，揺れ動く気持ちを共感的にとらえることができるようにした。終末では，導入に対応して「心のノート」を読み，書き込みをさせるなどして，自分自身をふりかえることができるようにした。

３　発問の工夫

常に主人公の気持ちにそった発問をすることにより，共感的にとらえさせていくようにした。また，のりづけされたページを見たときの主人公の気持ちを考えさせることにより，前向きな明るい気持ちで終わることができるようにした。

４　児童の反応

正直に言わないといけないとは思うが，なかなか言えない。また，これくらいいいではないかという児童もいた。しかし，ほとんどの児童は，この行為はよくないと認識しており，主人公の気持ちを共感的にとらえることができたようだ。

・最初，自分はだまっていると思ったけど，この学習をして，なんだか自分でも言えるような気がしてきました。

・ずるさが優先される時がぼくにもあります。楽しい事からする，めんどうな事は後回し，そのような事を繰り返していると誠実さがずるさにおしつぶされてしまいます。ずるをしてしまったらあとでこうかいすることにもなります。ずるをしてしまったとき，直さないと自分はもっとずるくなると思います。

５　授業後のフォローアップ

「心のノート」に記入する時間が充分とれなかったので，朝の会を利用して記入させた。また，継続して取り組めるよう，帰りの会等で自分の行動をふりかえる機会を持つようにするとさらに効果的であると考える。学級・学年通信等で学習内容を保護者に知らせ，家庭でも意識していただけるようにした。

（伴東小学校）

（1）主題名　勇気・希望　〔小学校高１－（２)〕

（2）ねらい　誘惑に負けずに，勇気をもって正しい行動を取ろうとする態度を育てる。

（3）資料名　「新しいシャープペシル」（出典：生きる力５年　大阪書籍）

資料の概要

よしおと正一，三郎は，低学年のころからの仲良しである。ある日，偶然出会った３人がスーパーマーケットへ行った帰り道，正一，三郎がよしおに新しいシャープペンシルを差し出す。スーパーマーケットで万引きしたものだ。正一はそのシャープペンシルを受け取ってしまう。数日後，母の「何か返せないわけでもあるの。」という言葉によしおは，頭をかかえこむのだった。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　資料を読み出来事を予想する。 ・「～高鳴っている。」まで	○「つとめて平気をよそおって答えた。しかし，胸は５０メートル走のあとのように高鳴っている。」とはどういうことでしょうか。 ・何かごまかしている ・何かかくしている	○出来事を予想させる。
展開	2　資料を読み，主人公の行動について考える。 ・「～もらっただけなんだ。」まで 3　主人公の気持ちを考える。 ・最後まで読む。	○正一から新しいシャープペンシルを差し出されたよしおは，どんな気持ちだったでしょうか。 ・　まさか万引き ・　どうしよう ・　もらったら仲間になる ○なぜ，よしおはシャープペンシルを受け取ってしまったのでしょうか。 ・　注意をすれば正一が警察につかまってしまうかもしれない ・　受け取らなければ友だちをなくすかもしれない ・　ことわる勇気がなかった ○「ぼくは，悪いことなんかしていない，もらっただけなんだ。」と思いませんか。 ・　ぼくもそう思う ・　ぼくはそう思わない。よくないよ。 ◎「すぐに返しなさい。それとも，何か返せないわけでもあるの？」と母に言われたとき，よしおはどんな気持ちになったでしょうか。 ・　やはりよくないことをしてしまった ・　なんとかしなくちゃ	○よしおの気持ちを共感的にとらえさせる。 ○正しい対処の仕方を知っていることをおさえる。 ○もらうと自分も悪くなることを知っていることもおさえる。 ○正当化する気持ちも否定しないで，共感的に投げかける。
終末	4　「心のノート」（中学年用）24･25 ページを読む。	○今日の学習をふりかえりながら「心のノート」を読みましょう。	○勇気ある行動をとることは自分を成長させることに気付かせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

本資料は，主人公が友だちから万引きしたものを受け取ってしまい，どうしようかと悩む内容である。主人公が直接万引きしてしまうというものではないが，よくない行動選択を迫られたとき，誘惑に負けず，勇気をもって正しい判断をし，行動しようとする態度を育てるには効果的な題材であろう。万引きに関わらず，正しい対処はどうすればいいのか分かっていても，なかなかその通りにできないという場面は，児童の日常生活においてはよく見受けられる。勇気を出せる自分になれるよう意識付けをしていきたい。

２　指導過程の工夫

本資料は，現在の主人公の気持ちから過去に戻る展開の工夫がされている。導入では，なぜそのような気持ちになったのか想像させることにより，話への興味・関心を高めるようにした。展開では，よしおの気持ちを共感的にとらえることができるように，児童の発言を肯定的にとらえていくようにした。終末では，「心のノート」を読むことで実践化につながるようにした。「心のノート」は，この題材，ねらいに効果的な内容があったので中学年用を使用した。

場面ごとに，ロールプレイング等を取り入れるとより共感的に主人公の気持ちをとらえることができるであろう。また，誘いを断る場面等をロールプレイングに取り入れると実践化に向けて効果的であろう。

３　発問の工夫

「ぼくは，悪いことはしていないんだ…」という主人公の気持ちに行為を正当化しようとする心の弱さがあらわれている。ここではよしおの気持ちを問うのではなく，よしおの気持ちを共感的にとらえさせることを意識した。また，最後の場面で母に問いつめられた際のよしおの気持ちを問うことにより，自分の気持ちに正直に，そして正しい行動をとろうとしているよしおの気持ちをとらえさせたい。

４　児童の反応

万引きという行為や万引きしたものをもらうことも悪い行為であることは認識できているが，このような場面に遭遇したときもらってしまうであろうと共感的にとらえている児童も多くいた。また，誘われた最初に断る事が大切であることを認識できたようである。

・万引きはしないけど，人の言葉に左右されることが多くあります。これからは自分の気持ちに素直に行動しようと思います。

・悪いことをして友だちでいるより，勇気をもって正直にしながら友だちを作っていくほうがいいと思います。

５　授業後のフォローアップ

形はちがうが本資料と似たような経験をした児童がいることも考えられるので児童の反応などから読み取り，丁寧な指導を行う必要がある。

（伴東小学校）

（1）　主題名　弱さの克服　〔中学校３－（３)〕

（2）　ねらい　人間には誘惑に負けてしまう弱さや醜さがあるが，それを克服する強さや気高さがあることを感じとらせ，誇りある生き方をめざす態度を育てる。

（3）　資料名　「銀色のシャープペンシル」（出典：読み物資料とその利用３：文部省）

資料の概要

主人公は掃除中のごみの中からシャープペンシルを見つけ，自分のものにしてしまう。そして，理科の時間に使っていたら，本当の持ち主の卓也にとがめられる。その場では自分の物だと嘘をつくが，あとでそっと教室のロッカーに返しておく。しかし，帰宅しても気持ちは晴れない。そこへ卓也からシャープペンシルが見つかったという電話がある。

（4）　学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　自分の経験を確認する。	○「学校で物を落としたり，なくした経験があれば発表しましょう。」 ・筆記用具の紛失は多い ・上履きを隠された ・金銭を盗まれた	○物を大切にする意味から，探した経験も併せて問いかける。窃盗被害等については深入りをしない。
展開	2　資料を読んで，ぼくの心の動きと行動を考える。 3　友人の無責任な発言と行動を考える。 4　自分の弱さに気付いたぼくの気持ちに共感する。	○掃除中にシャープペンシルを見つけたときのぼくはどんな気持ちだったでしょう。 ・持ち主は見つからないだろう ・もらっても平気だろう ○健二に疑われたとき，ぼくはどんな気持ちで「自分で買った」と言ったのでしょう。 ・盗んだと思われたくない ・卓也が落とすからいけない ・本当のことを言う勇気がほしい ○「おまえ卓也のシャープとったのか」という健二の発言をどう思いますか。 ・無責任な発言だ ・ぼくと卓也の気持ちを考えていない ◎電話を切った後，ぼくはどんなことを思ったでしょう。 ・自分は嘘を言ったのに，卓也に謝らせて申し訳ない ・なんだかもやもやする ・黙っておけば問題ないだろう ○卓也の家に向かって歩き出したぼくの気持ちはどんなものだろうか。 ・いつまでもずるい人間ではいられない ・知らん顔をしていたら後悔する	○だれにでも起こりうる状況であることを踏まえて考えさせる。 ○人間は，自分の弱さや醜い行動に対して，うしろめたさや恥ずかしさをもっていることに気付かせる。 ○自分の弱さを克服するには勇気が必要なこと，一度弱さに負けると，元に戻すには大変な勇気が必要なことに気付かせる。 ○健二の軽はずみで第三者的な言動が，ぼくの行動を制限していることに気付かせる。 ○電話を切った後の数行を資料から削除して提示し，読み取りにならないようぼくの心情について主体的に考えさせる。 ○弱さを克服したぼくに共感させる。
終末	5　「心のノート」を読み，今日の授業の感想を書く。	・自分も時々弱いときがあるのでもっと強くなりたい ・確かに正直に生きた方がいい ・主人公は卓也に本当のことを言って謝った，勇気があると思う	○Ｐ.７０～７１「かみしめたい，人間として生きるすばらしさ。」を活用する。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

道端に落ちている百円も，教室に落ちている消しゴムも，拾った場合，小さな子どもの頃には誰もが当然のこととして届ける。しかし，年齢が上がるにつれて，その意識は希薄になり，道端の百円を届ける大人は多くないと思われる。

本資料は，ごく日常的な生活で起こり得る状況が設定してある。生徒には金額が多かろうが少なかろうが悪いことに変わりはないことや，誤りを犯したときには，勇気をもって正していく態度を育てたい。

２　指導過程の工夫

導入では自分が落し物を拾った経験を思い出させることで，資料に深く入れるようにした。

展開は主人公の気持ちの動きと行動を考えることで，実際に起こりそうな状況を自分自身と重ね合わせて考えやすいようにした。

終末は心のノートを活用することで，道徳的価値の自覚を自ら求める時間とした。

３　発問の工夫

展開前半は，主人公の心の動きと行動を考えた。健二に疑われたとき，「自分で買った」と言った主人公の気持ちを考える場面は，自分の心の弱さにも気付かせるよう，十分に考えさせたいところである。また，不用意な「健二の発言」について取りあげた。第三者の無責任な言動が，問題を複雑にするケースは，日常生活にも多々ある。

卓也から電話があって，外に出るまでの数行は資料から削って提示し，主人公の心の動きを自分と重ね合わせて考えさせることとした。

４　生徒の反応

日常生活に結びついた内容であるだけに，生徒の反応は非常によかった。

・やはり自分のじゃない物は届けなければいけない
・自分にも弱いところがある
・健二の発言に関係なくダメなものはダメ
・健二はとったと言わずに，どうしたんだと言えばよかった

ふざけた口調で「自分も主人公のようにシャープペンシルをもらう」という発言があった，また「教卓に置いておく」という発言もあった。どちらも生徒の本音の発言と思われる。

５　授業後のフォローアップ

道徳の授業では，その時間の感想を書かせ，何点かを学級通信や帰りの会で紹介する取組みをしており，みんなの意見を共有することができた。

生徒は自らの弱さに負けて，さまざまなトラブルを起こしたり，わかっていてもできないことがたくさんある。授業での資料や話し合いを振り返るなど日常的に適切な指導をしていきたい。

（砂谷中学校）

（1）主題名　人間の強さと気高さ，生きる喜び　〔中学校３－（３)〕　関連項目〔１－（５)〕

（2）ねらい　人間としての弱さや醜さを自覚させ，それを謙虚に反省し，人間として生きる喜びを見いだし，向上しようとする心情を育てる。

（3）資料名　「足袋の季節」（出典：明日をひらく３　東京書籍）

資料の概要
筆者が少年の頃，貧しさと寒さに追いつめられ，大福売りのおばあさんから，釣り銭をかすめ取り，足袋の代金にしてしまう。おばあさんの「ふんばりなさいよ。」の一言が，足袋を手に入れることしか頭になかった筆者の心を大きく揺さぶる。その後，自責の念に駆られた筆者は初めて月給をもらっておばあさんに償いをしようと訪ねるが，そのおばあさんは既に亡くなっていた。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　「足袋」から資料の世界を想起する。	○「足袋」について何か知っているか。 ・　一昔前は靴下代わりにはいていた ・　着物を着た時にはくもの	○主人公の「どうしても足袋がほしい」という気持ちを理解させるための導入。 ○実物又は写真の提示
展開	2　資料「足袋の季節」を読んで話し合う。 3　自分を振り返り，自分の生き方を見つめる。	○私は「うん」とうなずいたとき，どんな気持ちだったか。 ・しめた。これで足袋が買えるぞ ・貧しいおばあさんを騙していいのか ・ばれたらまずいなあ ○私が苦しみ続けたのはどうしてだろうか。 ・おばあさんをごまかして後悔の念が残っていたから ・甘い考えで，過ちを犯した自分に腹が立ったから ・おばあさんに対する「本当に悪かった」という気持ちを忘れられなかったから ◎おばあさんが私にくれた心とはどんな心か。 ・温かい励まし ・過ちを二度と繰り返してはいけない ・これから精一杯生きていってほしい ○今までの生活の中で，自分の心の弱さに負けてしまったことや，打ち勝ったことはないだろうか。 ・先生や友達に注意されて，素直に認めないで人のせいにしたことがある ・見たいテレビがあったが，テスト勉強をせねばと我慢して取り組むことができた	○教師の範読 ○時代背景や当時(1920年頃)の貧しい生活，北海道の気候についての解説をする。 ○人間は誰だって弱い心を持っていることを気付かせる。（共感，批判の立場からそれぞれ意見を出させたい） ○後悔の念はいつまでも残り続けていることを自覚させる。 ○過ちを悔い，謙虚に反省し，自己の向上に努めている作者の気持ちを感じ取らせる。 （ワークシートに記入させる） ○自分自身に向けて考えさせる。 （ワークシートに記入させる）
終末	4　詩を読む。	・いい詩だと思った。私にもいるかな，そんな人。私も見つけようっと「その人」を…。	○模造紙による提示をする。 ○『にんげんだもの』による引用。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

本資料は，道徳の副読本によく取り上げられてきたいわば名作に当たる話である。現代とは時代背景が異なるが，人間が持つ良心と取り返しのつかない後悔をしてもなお前向きに生きようとする主人公の姿は，現代を生きる子どもたちにも是非ふれさせたいものである。また，「ふんばりなさいよ。」という，嘘を知ってか知らずかの大福売りのおばあさんの言葉は，主人公の生き方に大きな影響を与えた。一生に一人はそのような人と出会えたらいいという相田みつをの詩とともに己の弱さを克服しようとする心情をじっくり味わわせたいと考えた。

２　指導過程の工夫

主人公の「足袋がどうしてもほしかった。」という気持ちを理解させるには，当時の様子や背景をある程度つかませる必要がある。そこで導入では実物の足袋を見せ，生徒の興味付けを図った。また，資料を読んだ後，１９２０年代，北海道の様子などの説明を多少加えた。展開では，主人公の気持ちに共感し，自分を振り返るよう段階を追って発問を組み立てていった。終末の詩『その人』（相田みつを）を紹介することにより，自分の生き方を振り返り，これからをじっくり考えることができた。

３　発問の工夫

このように時代背景が違い，主人公の気持ちにじっくり共感していくタイプの資料では段階を追っていく発問は効果的だった。また，発問の合間に教師のそれぞれの経験談などを織り交ぜたことで，主人公の気持ちをより身近に感じさせることができた。展開後の自分を振り返る発問は，心の弱さに負けてしまったという聞き方だけでは思いを出しにくいであろうと考えて，弱さに打ち勝った経験も併せて尋ねるようにした。

４　生徒の反応

発問一つ一つに積極的に答えるのではなかったが，指名をして何人かの生徒の意見を聞く中で，教室全体がともに考えていく雰囲気になっていった。

・おばあさんの一言はすごく重かった。だからこそ自分の弱さに勝てたと思う。
・　普通の優しさもよいけど，今日の話みたいに心と心の中でわかるだけの優しさもよいと思った。
・　自分の弱い心に負けたこと，勝ったことといっても，自分では思いつかないけど，この話を聞いて毎日弱い心に負けているんじゃないかなと思った。
・　自分がいけないことをした時に，「いけなかったなあ」と思えるようになりたい。

５　授業後のフォローアップ

生徒の意見や思いをすべて交流するのは難しかったが，授業後に教室に掲示したり，学級通信などで紹介したりした。相田みつをの詩『その人』は，授業で使った模造紙に書いたものを生徒の目によく触れる廊下に掲示した。

（吉田中学校）

（1）主題名　　責任・誠実さ〔中学校　１－（３)〕
（2）ねらい　　自分の行動に責任を持ち，誠実に行動しようとする態度を育てる。
（3）資料名　　「歩き続けて」（出典：生きる力１　大阪書籍）

資料の概要
息子（隆人）が万引きをし，父親とともに謝罪して歩くという内容である。父親は万引きしたことを反省していない息子を連れて，謝罪に行くが，１軒目の店はあっさり許してくれ，隆人はにんまりと笑う。しかし，残りの３軒は１軒目とは全く異なっていた。ののしられている父の姿に，隆人はくやしさ，みじめさを感じ始める。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1「心のノート」P34（「自分を見つめる」といった内容）を黙読する。	○自分の心をじっくり見つめてみよう。	○自分の心の姿勢を考えさせる。
展開	2　資料の前半を読んで主人公の心情を考える。	○隆人は，最初の店で謝った時，どんな気持ちだったか。 ・謝りさえすればいい ・たいしたことはない ・こんなものか ・さっさと終わらせたい	○後半部分で共感させるためにも，主人公への怒りをもたせる。
	3　資料の後半を読んで主人公の心情を考える。	○隆人の顔から笑顔が消えたのはなぜだろうか。 ・父がバカにされて腹が立ち始めたから ・多くの人に見られて，自分のやったことの意味に気付いたから	○主人公の気持ちの変化に気付かせる。
		◎歩み続ける父の姿を見ながら，隆人はどんなことを考えたのだろうか。 ・お父さん，なんで黙ってるんだ ・本当に悪かった ・お父さんごめん ・父に頭を下げさせた自分に対しての後悔と憤り	○自分の行動を振り返った主人公に共感させる。
終末	4　主人公に共感しながら日記を書く。	○あなたが隆人だったら，その日の日記にどんなことを書くだろうか。 ・お父さんにみじめな思いをさせて申し訳ないと思った ・どんなに謝っても取り返しのつかないことをしてしまった ・父が僕のために頭を下げているのは悔しい	○自分の思いを素直に表現させる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

本資料には万引きをした息子を連れて店へ謝りに行き，ののしられ，それでも何も言い返さない父の姿がある。しかし，実際の場面では，この資料のように親が自分の姿勢を通して我が子の誤りを正す行動ができているとは限らない。そこで本資料の父の姿を通じて，自分の行動を見つめさせ，責任を持ち誠実に行動しようとする態度を育てたいと思った。

２　指導過程の工夫

各クラスで，資料提示の方法を変えた授業を試みた。その方法の一つは資料の一括提示である。資料の一括提示を行ったクラスでは，最後の場面での，主人公の心情への共感に深まりが出た。しかし，前半部分の主人公の心情に対して自分の思いを持つことが難しく，主人公の心の変容への共感は難しかった。

一方，資料を分割提示したクラスでは，前半で主人公への怒りをもたせることで，後半での主人公への共感に深まりがでた。

終末においては，どちらの展開でも自分を主人公に置き換えて日記を書かせる活動を行った。日記という形式をとることで，決まりきった感想ではなく，自分なりの考えをもつことができた。

３　発問の工夫

ストーリーの段階を追って，主人公の心情について発問を行った。

主人公の表情に注目し，笑顔が消えていくという明らかな変化から，心情の変化を対比的に捉えさせることができた。

中心発問を「父親の姿を見て，どう思ったか」というものにした。具体的な場面をイメージさせた上で自分の考えを持たせる工夫を行うことで，他人事ではなく，「自分だったら・・・。」という立場にたたせることができた。

４　生徒の反応

長い教材であったが，自分のこととして実感的にとらえ，しっかりと内容を捉えることができていた。

- 父が僕のために頭を下げているのは悔しい。
- こんな気持ちになるのはこりごりだ。
- 本当に悪いことをした。なぜこんなことをしてしまったのだろうか。父のあんな情けない姿は二度と見たくない。だから，もうこんな事はしない。
- 自分のために一生懸命謝ってくれている父に申し訳ない。
- どんなに謝っても取り返しのつかないことをしてしまった。

５　授業後のフォローアップ

生徒の意見や思いをすべて交流するのは難しかったが，授業後の教室掲示や学級通信等で紹介した。

実際に似たような状況を体験した生徒が発言をすることがあった。その生徒に対して，授業後に担任より発言したことを評価した。そして帰りの会で，取り返しのつかない事をした教師の経験を話し，フォローを行った。

（吉田中学校）

（３）暴力行為の指導に生かす

平成１４年度の広島県の公立小・中学校における暴力行為の発生件数は，小学校８７件，中学校９６６件である。前年度と比較すると，小学校２０件の減少，中学校３４６件の減少となっている。発生件数で見ると，平成９年度の調査以来，平成１３年度・平成１４年度と２年続けて減少しており，改善されてはきているが，集団で暴力行為に及んだり，中学校の発生件数が多い等，依然深刻な状態が続いている。その背景には，人間関係の希薄化，規範意識の低下，情報化社会の弊害，自己コントロール能力の低下などが考えられる。

暴力行為に対する指導にあたっては，暴力行為が安全な生活を脅かす反社会的な行為であり，暴力では何も解決できないこと，人間として絶対に許されないこと，被害者に対する身体的・心理的影響は計り知れないものがあることを児童生徒に理解させることが大切である。また，児童（生徒）会活動や学級活動で暴力について話し合わせ，児童生徒の力で暴力のない，暴力を容認しない学級や学校にしていく集団づくりの視点でも取り組まれている。しかし，こうした指導は，暴力行為が起きた後，事後対策としてその解決に向け取り組まれている場合が多く，暴力行為の未然防止に充分な効果を果たしているとは言いがたい。

暴力行為にはしる児童生徒には，人間関係の悩み，自己をコントロールする力の不十分さや社会性や規範意識の低さなども見られる。

従って「道徳の時間」によるアプローチとしては，暴力行為の防止に特にかかわりの深い内容項目である正義感，遵法，規範意識，公徳心，思いやりの心，生命尊重等について重点的な指導を行うことが効果的であると思われる。

参考　「生徒指導のてびき」P２３より

【Ｑ２】　暴力行為の兆候をつかんだとき，どんな指導をしたらよいでしょうか。

【A】
次のような指導を行います。

①　特定の児童生徒が被害を受けている兆候がある場合は，迅速に，面接，家庭訪問などを行い，状況を把握し，指導します。学校あげて被害児童生徒を守ることを最優先します。

②　被害児童生徒が特定できない場合は，全校児童生徒に対して，個人面接をしたり，アンケートを行うなど事実の把握に努めます。また，保護者などに，気になることの情報提供を依頼します。

③　プロジェクトチームをつくり，指導方針を協議し，職員会議などをとおして教職員の意識統一を図ります。また，保護者，警察など関係機関と連携して情報収集を行い，取組んでいきます。

④　児童（生徒）会活動や学級（ホームルーム）活動をとおして，児童生徒が暴力行為を自分自身の問題としてとらえ，暴力のない学校にしていくよう指導します。

（1） 主題名　正義感　〔中学校４－（４)〕　関連項目〔４－（２)・(３)〕
（2） ねらい　正義を重んじ、よりよい社会の実現に努める態度を育てる。
（3） 資料名　「路上に散った正義感」（出典：自分を考える２　暁教育出版）

資料の概要
路上で強盗犯人を取り押さえようとした大学生が，逆に刃物で刺され死傷したという実際に起きた事件を最初に紹介している。それに対する新聞社の社説と女子高校生の投書を取り上げ，正義感についてのそれぞれの主張を紹介している。最近の社会情勢を反映し，生徒にも社会の一員として問題提起を行い考えさせる資料である。

（4） 学習指導過程

	学 習 活 動	主な発問と生徒の心の動き	留 意 点
導入	1　教師が事件について話す。	○最近の犯罪事件について話をする。 （例）銀行強盗を通行人が捕える等	○クラス実態に合わせて話をする。
	2　生徒に場面を想定させる。	○そんな場面にいたらどうするか。 ・大声で叫ぶ，助けを呼ぶ ・じっと静かにしてる	○判断理由も簡単に添えて発表させる。
展開	3　資料前半を読む。	○事件概要と社説の部分を読む。	○Ｐ６６までを読む
	4　事件の感想を発表する。	○この事件に対してどう思いますか。 ・父は息子を失いすごく悲しいだろう ・勇気ある行動をとれた青年はすごい ・正しいことをして命を失うのはおかしい ・新聞の社説は少し冷たいと思う	○第三者の無責任を押さえ社説記事との類似性に気付かせる。
	5　資料後半を読む。	○女子高校生の投書の部分を読む。	○資料の最後まで読む。
	6　女子高校生の思いを考える。	◎女子高校生はどんな思いで投稿したのだろう。 ・助け合わない社会を嘆いている ・死を無駄にしたくない ・誠実な人が損をする社会を変えたい	○切り返しの発問 「命を懸けてまで正義感を発揮してはいけないのか」を適宜投げ入れる。
	7　自分と重ねて考える。	○「正義感，路上に散る」で終わらせないために君にできることは何だろうか。 ・無視をせず相手の立場で行動する ・状況判断し無理なら他に助けを求める ・逃げても困った人を見捨てない	○かかわる力をもつという視点を大切にする。
終末	8　教師の説話	○社会に対し展望の見える話をする。 （例）譲られた浮き輪 新大久保駅日韓青年の話など	○時間があれば感想を書く。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

生徒がテレビや新聞で見る社会の姿には，犯罪に関するニュースも多い。社会に対しての興味や関心が高まる時期でもあり，正義感をもって生きていくこと，正しいことが通る社会を創ることは大切だということを学ぶ意義は大きい。

これは生徒が毎日の生活のほとんどを過ごす学級においても同じであり，自分の生き方にかかわってくることにも気付かせることのできる資料である。

２　指導過程の工夫

資料でより深く考えさせるために，導入において最近の犯罪事件を例に出し触れていった。生徒にはそんな場面にいたらどうするかを問いながら，資料を読む時に自然に自己と重ねて考えられるように導いた。

展開は資料を分割提示し，前半では第三者の無責任さを明確にさせ，社説記事との類似性に気づかせながら，後半の女子高校生の思いをしっかりと受け止められる流れを作った。

終末では，自己と重ねながら自らの生き方を考える形で終えるとともに，社会への明るい展望が持てるような教師の説話を設けた。

３　発問の工夫

前半では生徒の感想を発表させる中で，そこに表れる生徒の事件に対する感情や価値観を押さえながら，より多くの発言を引き出していった。特に，生命尊重を重視した価値で終わらせず，社会全体を考えての正義感へと深めるための切り返し発問も準備した。

４　生徒の反応

「正義感をもって助けようとすぐ行動したのはすごい」と「正義感でやっても殺されては…。」という双方の意見が出されたが，その比率は前者が８割，後者が１割であった。切り返しの発問には考え込んだ様子だったが，「正しいことが通らなくなる社会はいけない」という思いから，「勇気を持ってなんとか対応すべきだ」という意見が出された。そして，女子高校生の思いを真剣に受け止め，自分と重ねて「小さなことでも見て見ぬふりをしない」「いじめなど注意していく」「困った人がいたら助ける」など自分にできることを行動化しようと考えていた。

５　授業後のフォローアップ

帰りの会等では，犯罪事件に巻き込まれない指導はしてきたが，社会全体を考えて行動することまではなかなか難しかった。この授業後は，まずは身近な学級という小さな社会でも正義が通っているかを問いかけている。「心のノート」（Ｐ９４）にある「この学級には正義があるか」を活用しながら考えたクラスもある。秋の修学旅行では，学校を離れ，社会に触れ，自分たちの行動が問われる場面もある。仲間と共に学級という社会でも正義が通る状況をつくっていきたい。　　（加茂中学校）

（４）器物損壊の指導に生かす

器物損壊は，他の問題行動に比べて多くの児童生徒が経験したことのある行為であると思われる。平成１４年度の広島県の公立小・中学校における器物損壊行為の発生件数は小学校２６件，中学校２３１件である。前年度と比較すると小学校１０件，中学校７９件の減少となっている。発生件数で見ると，平成１０年度の調査以来，平成１２年度から毎年続けて減少しており，改善されてはきている。

しかし，この資料には表れていないが，学校の駐車場で友だちとボール投げ遊びをしていて車にボールを当ててしまったとか，教室の机に落書きをしたとかいう行為は，故意か故意でないかは別として，学校内でよく起きる事象である。

器物損壊の状況

区分	年度	発生学校数	発生件数	加害児童生徒数
小学校	１０年度	17	48	44
	１１年度	16	46	57
	１２年度	14	40	41
	１３年度	14	36	36
	１４年度	16	26	44
中学校	１０年度	67	338	339
	１１年度	63	379	385
	１２年度	82	450	360
	１３年度	73	310	292
	１４年度	62	231	218

「平成１４年度の広島県における生徒指導上の諸問題の現状について」　広島県教育委員会

こうした場合，全体指導として，朝会や学級指導の時間等に，「みんなの物を大切にしよう。」などの呼びかけ，さらに，当該児童生徒へは，事実関係の把握に基づき個別指導を行っている。その他にも，全体の取組みとして，学校行事や児童会・生徒会活動を通して，環境美化に関わってのゴミ拾いや清掃活動などの体験活動の実践例も見られる。

こうした指導に加えて，公共物をなぜ大切にしなければならないのかということを一人一人の心の中で意識化させる指導が大切である。そこで，「道徳の時間」の指導では，「公徳心」という内容項目だけでなく，「伝統文化の尊重」や「愛校心」「感謝」「おもいやり」「自然愛護」など，多様な内容項目から，一人一人にしっかりと考えさせていくことが大切である。

KANE

（１）主題名　公徳心　〔中学校４－（３)〕

（２）ねらい　器物損壊などの身勝手な行動は，許されない行為であることを知り，社会を構成する一員としての生き方を考える。

（３）資料名　「ささいな事柄」（出典：あすを生きる３　日本文教出版）

資料の概要

作者がタクシーに乗ると，座席が刃物で切り裂いてあった。運転手によると前に乗った若者のしわざらしいという。運転手との間に特別なトラブルはなかった様子であり，理不尽な蛮行に作者は怒る。作者は若者の行為を批判しながら，物を大切にしなければならない理由を，物を作った人との関係で述べる。

（４）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	１　物を大切にする気持ちの確認。	○自分が大切にしている物を発表しましょう。 ・プレゼントしてもらった物 ・幼い頃から持っている物 ・賞状類	○思いが込められている物を考えさせる。
展開	２　資料を読んで運転手の気持ちを考える。	○運転手が“ものうげに”答えたのはなぜでしょう。 ・やりきれない気持ち ・怒りを通り越して，考えたくもないという気持ち	○「ものうげに」や「抽象概念」「無償の行為」などの言葉の整理をする。 ○運転手の無力感に気付かせる。
	３　若者の行為を考える。	○どうして座席なんかを傷つけたのだろう。 ・理由なくやった ・むしゃくしゃしていた ・運転が乱暴で気に入らなかった ・実はトラブルがあったのではないか	○理由のない，衝動的な行為であることを確認する。
	４　作者の発言について考える。	◎作者はどんな思いで戦争中に敵を殺すよりも，座席を切る行為が残虐だと言ったのだろう。 ・作者は間違っている，戦争の方が残虐だ ・理由がない行為だから ・作った人の気持ちを考えていないから	○戦争であっても人命は尊いことに注意するとともに，戦争の残虐性を確認する。作者は極端な例を挙げていることに注意して指導する。 ○後半部分の作者の思いを細く説明する。
	５　身のまわりの状況を考える。	○校内で机に落書きをする人は，どういう気持ちで書いているのか考えましょう。 ・何も考えていない ・面白半分にやっている ・メモがわりに使っている ・別のことに腹を立ててやっている	○実態に応じて，物が壊される状況があれば併せて考えさせる。
終末	６　「心のノート」に記入し，今日の授業の感想を書く。	・なぜ公園のトイレはすぐよごされてしまうのだろう ・社会のためになる自信はないけど，迷惑はかけないようにしたい	○Ｐ９２「私が許せないと思ったこと」を活用する。

実践報告にみる留意事項

1　資料・題材について

観光地や公共施設には，時として落書きなどのいたずらがされることがある。学校では荒れの実態があれば顕著であろうが，多少の落書きはどこにでもあるのではなかろうか。

本資料は新車のタクシーの座席を切り裂くという極端な例を取りあげているが，現代社会ではこういった破壊行為も少なくないと思われる。これからを生きていく生徒には，公共の意識や公徳心の育成が急務である。

2　指導過程の工夫

中学生にとって資料のようなタクシーの座席を切り裂くという行為は，現実の生活とは距離感があり，戦争中の残虐行為を例に挙げた強烈な意見も距離感がある。

そこで，導入では現実の生活を確認し，展開前半では理不尽な行為の不当性を感じ取らせ，展開後半と終末では再び現実の生活と結び付けるようにした。

3　発問の工夫

座席を切り裂かれた運転手の気持ちを問う発問では「ものうげに」という言葉に着目して，運転手のやり場のない怒りや無力感を感じ取らせるようにした。

中心発問の「戦争中に敵を殺すよりもタクシーの座席を切り裂くほうが残虐」という部分は，作者の極端な例えではあるが，他の例えでは表現できないくらいの残虐な行為であることを考えさせる発問である。

なお，戦争が残虐なのはいうまでもなく，表面上の文字づらだけで，戦争の残虐性と比較させないように留意する必要がある。

4　生徒の反応

本校においては，資料のような極端な事象ではないにせよ，数年来落書きや器物破損の実態がある。大半の生徒は当然よくない行為だと捉えており，学習を通して物を大切にする気持ちや，公徳心を確認するよい機会となった。

・机への落書きはしないようにする
・今までは，物を作った人のことは気にしていなかったが，物を作る姿を想像した
・自分の物も学校の物も大切にしようと思った
・戦争とくらべるのは少し大げさだと思った

逆説的に用いた「無償の行為」などの言葉以外にも，全体的に表現が難しく読み取るのに時間がかかった。

5　授業後のフォローアップ

道徳の授業ではその時間の感想を書かせ，何点かを学級通信や帰りの会で紹介する取組みをしている。

今後は物を大切にし学校を大切に使うようにするために，落書きなどをしないことや丁寧な掃除を心がけるなど平素からの指導を大切にしていきたい。

（砂谷中学校）

（1）主題名　学校を愛する心　〔小学校高４－（６）〕　関連項目〔小学校高４－（２）〕

（2）ねらい　学校に愛情と誇りを持ち，学校の一員としての自覚を持って，立派な校風をつくろうとする心情を育てる。

（3）資料名　「お父さんのタイムカプセル」（自作資料）

資料の概要
友だちと投げ合いをしていたサッカーボールが当たって，植え込みの中に立っていた古い板をこわしてしまったひろし。その板は，ひろしの父が小学校卒業の時に埋めたタイムカプセルの立て札だったのだ。タイムカプセルに寄せる父の思いと卒業を間近にひかえた兄こうじの卒業制作に取り組む姿に，ひろしの心は動かされるのだった。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　学校にある好きな物について発表する。	○あなたが学校の中で一番好きな物は何ですか。また，それはどうしてですか。 ・おもしろいからブランコが好き ・気持ちいいからプールが好き ・いっぱい遊べる運動場が好き	○学校全般の公共物について，しっかり考えさせる。
展開	2　資料前半を読んで話し合う。	○割れた板をさしこんでいる時，ひろしはどんな気持ちだっただろう。 ・古びた板だから，こわれてもどうってことない ・だまって立てておけば分からない	○どうしてだまって帰ったのかについて考えさせる。
	3　資料後半を読んで話し合う。	○こうじはどんな気持ちで卒業制作を作っているのだろう。 ・どんなのができるか楽しみだ ・みんなでよいのを作るぞ ○その夜，どうしてひろしはお父さんにこわした立て札のことを話す気持ちになったのだろう。 ・お父さんの気持ちを大切にしたいから ・お父さんの大切な思い出の物をこわしたから ◎ひろしは，どんなことを考えていて，なかなかねむりにつけなかったのだろう。 ・学校の物にはいろんな人のいろんな思いがこもっているから，大切にしなくては ・卒業生の人たちの思いを大切にしたい	○お父さんだけでなくお兄さんの気持ちにもしっかり共感させたい。 ○「立て札を壊したのであってタイムカプセルを壊したのではないよね。」と切り返しの発問をする。 ○自分が通っている学校は，自分だけではなくみんなの学校でもあるということに気付かせる。
	4　自分たちの学校について振り返る。	○学校には，卒業生が残していった物として，どんな物があるだろう。 ・壁にかかっている絵 ・木	○自分たちの学校にも卒業生の残した作品があることに目を向けさせる。
終末	5　学校にある卒業制作を見る。	○学校にかざってある卒業制作の一つを見てみよう。 ・階段の所にあるよ ・玄関のところにある絵もそうかなあ	○当時の卒業生たちの気持ちに思いをはせながら，卒業制作の作品を見る。

お父さんのタイムカプセル

【前半】

一郎と健太とひろしは、大休けいにグラウンドでサッカーをした後、ボールを投げ合いながら教室へもどっていました。つい調子にのって児童玄関横の植え込みにまではいって、三人はボール投げをしてしまいました。ひろしが強く投げたボールが奥の方に立っていた板に当たりました。

（しまった。）

と思って、木をかき分けて近寄ってみると、ボールのそばに割れた板が倒れていました。どうしようと思っているところへ、一郎と健太がやってきました。一郎が、

「なにか字が書いてあるぞ。タイムカ・・・。四十八っていう字も見えるぞ。大事な物じゃないのかな。すぐに先生に言いに行った方がいいよ。」

と言いました。

しかし、健太が、

「古びた板じゃないか。割れたまま立てておけば分かりゃしないよ。それにもう三校時が始まるよ。急ごうぜ。」

と言いながら、すぐに割れた二つの板を土にさし始めたので、ひろしもいっしょに両手で強く板を上から押さえていました。

ひろしは、授業中も掃除中もずっとこわれた板のことが気になっていましたが、今日は塾に行く日なので、急いで家に帰りました。

塾から帰って家族といっしょに夕飯を食べている時、父が兄のこうじに話しかけました。

「こうじ、もうすぐ小学校を卒業だな。実は父さん、昨日久しぶりに六年生の時の友だちに出会ってな。タイムカプセルの話になったんだ。なつかしかったよ。父さんたちは卒業する時に、クラスで作ったタイムカプセルを埋めたんだよ。本当に仲のよいクラスだったな。そのタイムカプセルはなあ、こうじとひろしが通っている小学校の玄関の横に埋めてあるんだよ。」

ひろしは、二人のそばでその話を聞いてびっくりしました。あの板はお父さんたちが埋めたタイムカプセルの立て札だったんだ。お父さんがこんなに大切に思っている物をこわしてしまったんだ。どうしよう。ひろしは、迷ってしまいました。

【後半】

夕食後、兄弟二人の部屋へもどると、兄はすでに机の前で何かをいっしょうけんめいに彫刻刀で彫っています。ひろしは、

「兄さん、それ何。」

と聞きました。こうじは、

「卒業制作の壁画を作ってるんだ。一人一人が分担して彫ったものをはめ込んで一枚の大きな壁画にするんだ。クラスのみんなの協力を結集したいい壁画になるぞ。」

とうれしそうに答えました。

それを聞いて、ひろしは急いで階段を下りて父の部屋へ向かいました。ひろしは父の部屋へ入ると、下をむいたまま話し始めました。

「実は今日、サッカーボールの投げ合いをしていて、ぼくの投げたボールが学校の児童玄関横の花だんに立っていた古い板に当たってこわしてしまって。お父さんの思い出の立て札を…。」

そこまで言って、後は涙で声がつまって言葉になりませんでした。

父は、ひろしの肩に手を置いて、

「よく本当のことを話してくれた。いいかい、ひろし、学校には、たくさんの人の思い出のつまったものや、みんなで使う物がたくさんあるんだよ。来年父さんたちがタイムカプセルの回りに集まった時、その場所が大事にされていたらタイムカプセルを開ける前に、三十年前の自分たちにもどれると思うんだよ。」

と言いました。

ひろしは、その夜、いろんなことを考えて、なかなかねむりにつけませんでした。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

児童が楽しく通ってくる学校には，何気なく見過ごしている場所や物がたくさんある。毎日よく遊んだり使ったりしている物ばかりでなく，多くの卒業生たちが思い出を刻みながら作った卒業制作のように今は使っていないけれどだれかが心をこめて作ったものや記念として残してあるものもある。この資料では，卒業の時のことをしみじみと語る父や完成を楽しみに一生懸命壁画を彫る兄の姿を通して，自分の行動を振り返りながら，学校への思いを深めさせたい。

２　指導過程の工夫

導入においては，児童に学校の物を意識させることで，資料に出てくるタイムカプセルという日ごろ目にすることのない物への思いの広がりをもたせるように工夫した。展開においては，資料を分割提示し，さし絵を使いながら読み聞かせをすることで，資料の中の登場人物に共感させたいと考えた。

また，終末においては，実際に自分たちの学校の卒業制作を見るという学習活動を取り入れた。そうすることで，自分たちの学校の卒業生の思いに気付かせることができると考えた。

３　発問の工夫

主人公の心情にそって発問を構成した。中心発問では，補助発問により引き出した主人公の心情をもとに，書く活動も取り入れて一人一人にしっかりと考えさせた。

また，「立て札を壊したのであってタイムカプセルを壊したのではないよね。」と切り返しの発問をすることで，父親への共感をさらに深めることができた。

また，展開の後段では，自分の学校の中にある物について，導入とは異なる視点で目を向けさせることができた。

４　児童の反応

・大切なことが書いてあるんだからタイムカプセルを掘る時に場所がわからなかったらどうしよう。
・タイムカプセルの中に傷がついてないだろうか。
・立て札をこわしただけでなくお父さんの思い出までこわしてしまったなあ。

タイムカプセルを傷つけたわけではないが，タイムカプセルにまで思いをはせている児童も多かった。また，学校内の目立たない物にも目を向け，それを大切にしていきたいという感想をもつ児童もいた。

５　授業後のフォローアップ

児童はたくさんの物に接して学校生活を送っている。学校生活のあらゆる場面において接する物には，いろんな人の思い出がたくさんつまっていることに気づかせていきたい。また，この学習で子どもたちが発見したものなどを写真に撮り，道徳コーナーに掲示するなどして自分たちの学校に対する愛情や誇りを育てていきたい。

（大野西小学校）

（５）暴走行為の指導に生かす

暴走行為は，道路交通法違反だけなく周辺住民や市民に対して騒音や走行方法などで大きな迷惑をかけ，自他の生命の安全を脅かす犯罪行為である。また，暴走族やチーマーのように集団の力をかりて粗暴化し，金銭（品）強要や暴力事件，バイク盗などのさらに深刻な犯罪へと発展する場合が多い。その背後には「面倒見」と呼ばれる暴力団の存在も指摘されている。

学校は，保護者・地域・警察など関係機関と連携しながら暴走行為や暴走族への加入防止の指導を行い，暴走行為に及んだ生徒にはその事実を確認し，再び暴走行為にはしることのないように指導し，もし暴走族に加入している場合には，他生徒への広がりを確認したり，脱退の指導をしている。また，全生徒に対して，全校集会や学年集会や学級（ホームルーム）活動において，暴走族の犯罪行為の実態や恐ろしさを知らせ，加入することはもちろん，暴走族の集会などを見に行かない指導を行っている。

しかし，これまでの危険性を訴え，暴走行為を禁止するアプローチに加え，暴走行為への憧れや欲求を持つ生徒の意識を変えるための指導が大切である。

そこで「道徳の時間」において，「公徳心」や「社会連帯」，「遵法精神」といった直接的に働く内容項目から，「友情」や「家族愛」，「愛校心」など生徒を取り巻く環境を考える，自分の未来への夢や希望，自尊感情を育成する観点からのアプローチが考えられる。

「道徳の時間」は，資料やその主人公を通して弱い心に打ち勝つ心情を味わったり，自分自身と重ねて生き方を考えたり，周りの人々のことを考えることを通して暴走行為の指導に生かすことができる。

参考　「ＲＥ：今暴走族に入っている君たちへ『ＲＥＰＬＹ：返信』」

発行　広島県防犯連合会

監修　広島県警察本部

【「編集にあたって」より抜粋】

広島県警では，平成 13 年 10 月 3 日，交通部長を長とする 228 名体制の暴走族特別取締本部を設置して，暴走族に対する徹底した取締りを開始した。

それは，暴走族が，単に暴走行為を行うのみならず，ひったくり，傷害，恐喝などの犯罪に手を染め，県民に多大な被害を及ぼすとともに，警察官や警察施設に攻撃を加えるなど，警察に対する対決姿勢を鮮明にし，もはや看過できない状況にあったからである。

また，広島県警では取締りと合わせて，「今暴走族に入っている君たちへ」と題するメッセージをリリースして，犯罪集団化した暴走族からの一日も早い離脱を呼びかけた。

また，暴走族からの離脱や更正を促す一方で，警察の彼らに対する考え方をよく理解してもらおうと，逮捕した暴走族メンバー等に，このメッセージを読んでもらったが，意外にも多くの者が素直な感想を述べた。そこで，これを文にしてもらったらと話しかけたところ，現役構成員，ＯＢはもとより，面倒見と称して暴走族を取り仕切っていた者等，多くの者が感想文を書いてくれたのである。

その内容は，

○　暴走族への加入動機

○　暴力団や犯罪とのかかわり

○　親族に対する気持ち

等，様々であり，中には，数ページに及ぶものも見受けられた。

この冊子は，彼らがその心境を吐露したものをまとめたものであり，彼らのありのままの気持ちが読み手にできるだけ率直に伝わるように誤字だけの訂正にとどめた。（略）

（1）主題名　自律と責任〔中学校　１－（３)〕
（2）ねらい　自己の尊厳に気付き，何が正しく，何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動がとれるような態度を育てる。
（3）　資料名「ある少年の死」（出典：広島県警察本部生活安全部制作ＶＴＲ）

資料の概要
両親が離婚して母親と二人だけの生活が始まった。友だちのパシリ，そして暴走族へ足をつっこんでいくエイスケ。最初はやさしかった仲間に都合のいいようにつかわれるうち，だんだんと仲間たちに対して怖さを感じるようになる。けがをして入院したことをきっかけに暴走族から抜けようという気持ちになった矢先，エイスケは，尊い命を落としてしまう。

（4）　学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　提起した問題について自分の考えをもつ。	○先輩に「一週間後の夜に，バイクで走るが，後ろに乗せてやるから一緒に来ないか。」と誘われました。あなたはどうしますか。 ・断る・・・・・・・・・・・・・赤 ・断ることができない・・・・・青 ○夜の暴走行為に先輩から誘われていることに子どもの様子から気付きました。我が子に対し，あなたならどうしますか。 ・ひきとめる・・・・・・・・・・赤 ・ひきとめることができない・・青	○生徒に自分の考えをカードで意思表示させる。 ○保護者に自分の考えをカードで意志表示してもらう。
展開	2　ＶＴＲ「ある少年の死」を見て話し合う。 3　導入で提起した問題について再度自分の考えをもつ。	◎あなたは，エイスケにどんなことを言ってあげたいですか。 ・エイスケに悪気はなかったのにね ・暴走族に入らなければ死ななくてすんだのに ・寂しかったんだね ・あの時誰かに相談しておけばよかったのに ・どんなことをしても引き留めるべきだった ・とりかえしのつかないことをしてしまった ・どんなに後悔してもしきれない ○もう一度授業の最初と同じ問題を提起します。あなたはどうしますか。 ・断る・・・・・・・・・・・・・赤 ・断ることができない・・・・・青	○ＶＴＲが２７分間あるので，時間を考慮しながら生徒と保護者の両方に考えてもらい意見交流をする。 ○生徒には親友の立場，保護者には親の立場で考えさせる。 ○生徒と保護者の意思表示の変化に注目する。
終末	4　今日の授業の感想を書く。	○今日の授業ではどんなことを感じましたか。 ・親の意見に感動しました ・親の意見を聞いて，子どもが先に死ぬことの辛さを強く思った	○保護者から今日の授業について話してもらう。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

この資料は，広島県警察本部生活安全部が制作した暴走族加入防止広報ビデオである。内容は，暴走族に入り命を落としていった少年に対し，母親のいくら後悔してもしきれない気持ちを訴える内容になっている。したがって生徒と保護者が共にビデオを視聴し，意見を交流する授業にすることがより効果的であると考えた。

２　指導過程の工夫

保護者参加の学年道徳として授業を実施したので，導入部の問いについては意思表示が全体の中で明確になるように色カードを使用した。また，ビデオの視聴時間が２７分と長いので発問をしぼり，考える時間を十分にとった。授業のねらいにどこまで迫ることができたか確かめるために意見交流の後，導入と同じ問いを再度生徒にすることにした。この授業では，生徒だけでなく保護者にも意見を述べてもらったことでより生徒の心に響く展開にすることができた。

３　発問の工夫

導入で「暴走行為に先輩から誘われた時あなたはどうするか」という生徒向けの発問と「暴走行為に誘われていることに気付いたあなたは，我が子に対しどうするか」という保護者向けの発問を考えた。意思表示は色カードで二者択一にしたので効果的であった。展開の中心発問は,「エイスケにどんなことが言ってあげたいか」とした。生徒は親友という立場で保護者は親の立場で考えることとしたが，意見交流をする上で発問を一つにしぼり同じ内容にしたことは効果的であった。

４　生徒の反応

ビデオを見て感想を述べるだけの展開でなく，発問を通して保護者と生徒が意見の交流をしたことでこの資料の目的である暴走族加入防止により迫ることができたと考える。

・何で死んでしまったんだよ。でも立ち直ろうと精一杯だったんだよね。
・相談にのってあげられなくてごめんね。エイスケのぶんも頑張って生きます。
・何で親を悲しませることをしたんや。
・とても優しかったあなたにはもっと生きてほしかったし，自分をもっと大切にしてほしかった。
・何でぼくに相談してくれなかったんだ。
・エイスケ辛かったんだね。助けてあげられなくてごめんね。

発問に対して，我が子の姿と重ね合わせ涙ながらに思いを述べられた親もあり，生徒の心を強く揺さぶった授業になった。

５　授業後のフォローアップ

ビデオの視聴後の授業時間が短かったため，生徒も保護者も限られた人数でしか意見交流ができなかった。そこで授業後の教室掲示や学級通信等を通して生徒や保護者の思いを紹介した。

（吉田中学校）

（1）主題名　誠実に生きる　〔中学校１－（３)〕　関連項目〔２－（２)〕
（2）ねらい　自己の行為に責任を感じて心を尽くして償う主人公の生き方を通し，自らも誠実に生きようとする心情を育てる。
（3）資料名　「償い」　（出典：さだまさしＣＤ）

資料の概要
交通事故で人をあやめてしまったある青年は，償いのために遺族への仕送りを欠かさず，誠実に日々を送る。夫を亡くした奥さんもその心を受け止めるが，それでも割り切れない思いを抱いている。優しい人々が悲しいまでに織りなす人生模様に涙が止まらない実話をさだまさしが歌にした。裁判官が反省の様子の見えない被告に対してこの曲を聴くように諭したことで脚光を浴びた。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　教師による話題提供を行う。	○最近起きた社会的な事件や裁判について触れる。	○罪の自覚がなく反省の態度が見られない事件を取り上げる。
展開	2　主人公の償う姿を通して考える。 3　奥さんの複雑な思いを考える。 4「償う」ことの意味を考える。	○曲の前半（手紙が届くまで）を読む。 ○彼が奥さんに謝罪していた時の気持ちを考えよう。 ・ただひたすら謝るしかない ・自分にできるだけの償いをしよう ・何を言われても仕方がないくらい，申し訳ないことをしてしまった ○手紙には何と書いてあっただろう。 ・心が伝わったからもう許します ・何度謝られても元には戻らない ○曲を聴きながら，全文を各自で読む。 ○奥さんは手紙にどんな思いを込めたのだろうか。 ・夫を思い出すので来て欲しくない ・彼の姿を見るのが痛々しくて辛い ・彼の人生も大切にしてほしい ◎彼は許されたのだろうか。 ・許された（法的には済んだから） ・奥さんは許したが，彼は自分自身を許さないだろう ・許されたと思いたい ・誰にも分からないから神に尋ねた	○資料は２枚に分け，分割提示を行う。 ○予想の範囲でよいが理由を添える。 ○後半に入る直前に２枚目を配る。 ○「彼の罪は消えたのだろうか」と切り返しの発問を用意する。
終末	5　曲を再度聴きながら，感想を書く。	○もう一度曲を聴きながら，感想用紙に感じたことを書こう。 ・二人の優しい気持ちが痛いほど感じられた ・彼はこれからも償い続けると思う ・許そうと思うが，罪は消えない	○生徒の感想は，学級通信や帰りの会で紹介しながら，償うことの意味をさらにを生徒と考えていく。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

本資料は，さだまさしさんのＣＤ「感動の素」に収録されているものである。

不注意で交通事故を起こし一人の人間を死なせてしまう主人公（ゆうちゃん）。彼は被害者の奥さんに賠償金とは別に７年間仕送りを続ける。「償う」とは一体何をすることなのか。「許す」という気持ちはどこから生まれ，何を基準に「許された」とされるのか。

「償う」「許す」をキーワードに誠意ある行動について考えさせたい。

２　指導過程の工夫

本資料は実話をもとに作られた教材であり，それをまず生徒に伝えておいた。

そして，奥さんからゆうちゃんに手紙が来るところまでを展開前段としてとらえ，彼のとった誠意ある行動について考えさせた。次に，手紙の中身や意味を考えさせ，奥さんの心情にも迫った。

また，展開と終末，２回にわたって歌を聴くことで，ゆうちゃんや奥さんの心情により深く迫っていけるように工夫した。

３　発問の工夫

ゆうちゃんが７年間してきた行動は，彼のどんな気持ちがそうさせたのか。罪を犯した彼がどんな心の内にいたのかをまずはしっかりと考えさせた。

そして，奥さんが送った手紙の内容から，実際は被害を受けた人が，誠意ある行動の前ではどのような心境の変化を見せたかを考えさせた。そこから，「許す」という心情が実はどれだけ重く，相手の行動によって影響されるかを多くの生徒が気付いていた。

４　生徒の反応

・ゆうちゃんは７年間仕送りをするという方法で十分償いをしたと思います。奥さんは夫のことは忘れないだろうけど，もう前に進んでいきたいから手紙を出したんだと思います。
・ゆうちゃんが自分自身を許すことができればその罪は許されたと思っていいのではないでしょうか。
・ゆうちゃんの７年間の優しさを受けて奥さんも自分を見つめなおし，ゆうちゃんに優しい言葉をかけてあげられた。人の優しさは人を大切にしてあげられる。
・いつの日か奥さんがゆうちゃんを許す日がきても，ゆうちゃんは自分のことを最後まで許すことができないと思います。

５　授業後のフォローアップ

実際に書かれた感想をもとに学級通信で紹介し，帰りの会等でも交流し，お互いの考えの交流を図った。また，自分の欲望を満たし，力を誇示するためだけに集団で交通ルールを破り，社会に迷惑をかけている暴走行為についても触れ，被害者を出してからでは遅いということを再度一緒に考えていった。

（加茂中学校）